

れいわ ねんどがまだがわりゆういきけいりゆうほぜんこうこうじ あんぜんたいさく
④令和5・6年度蒲田川流域渓流保全工工事における安全対策について

辻建設(株) 令和5・6年度蒲田川流域渓流保全工工事
(工期:令和5年8月18日～令和6年9月6日)

みやだ たつや
現場代理人 ○ 宮田 達也
監理技術者 宮田 達也



【キーワード】 架空線、交通災害

1. はじめに

本工事場所は、水源を槍ヶ岳（標高3,180m）に発する右俣谷と、水源を^{もみきわだけ}樺沢岳（標高2,755m）に発する左俣谷の合流点周辺で新穂高温泉や新穂高ロープウェイが整備されており、槍ヶ岳・穂高岳の登山口とともに自然環境を満喫できる奥飛騨温泉郷の観光拠点となっている。

右俣谷、左俣谷の両渓流はいずれも高山性崩壊地形の渓流で、上流域が脆弱な地質なうえ多雨多雪の気象条件とも相成って、過去には土石流や国内最大級の雪崩が発生している。

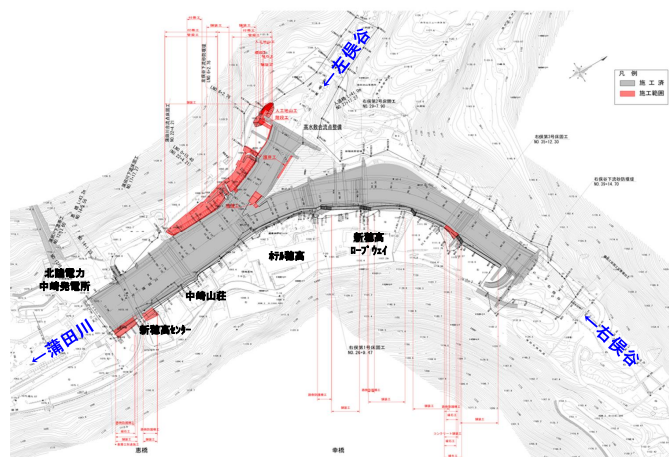
本工事は新穂高地区を流下する蒲田川は川幅が狭く、宿泊施設等が河岸に近接していることから土砂災害に対する安全性を確保を目的に、流出土砂をスムーズに流下させるとともに、流出土砂の抑制を図る土砂災害防止施設（渓流保全工）を整備し、平成17年より19年にわたって続いた事業の竣工を目指すものである。

本稿ではこの工事において実施した安全に関する対策について報告します。

現場位置図



平面図



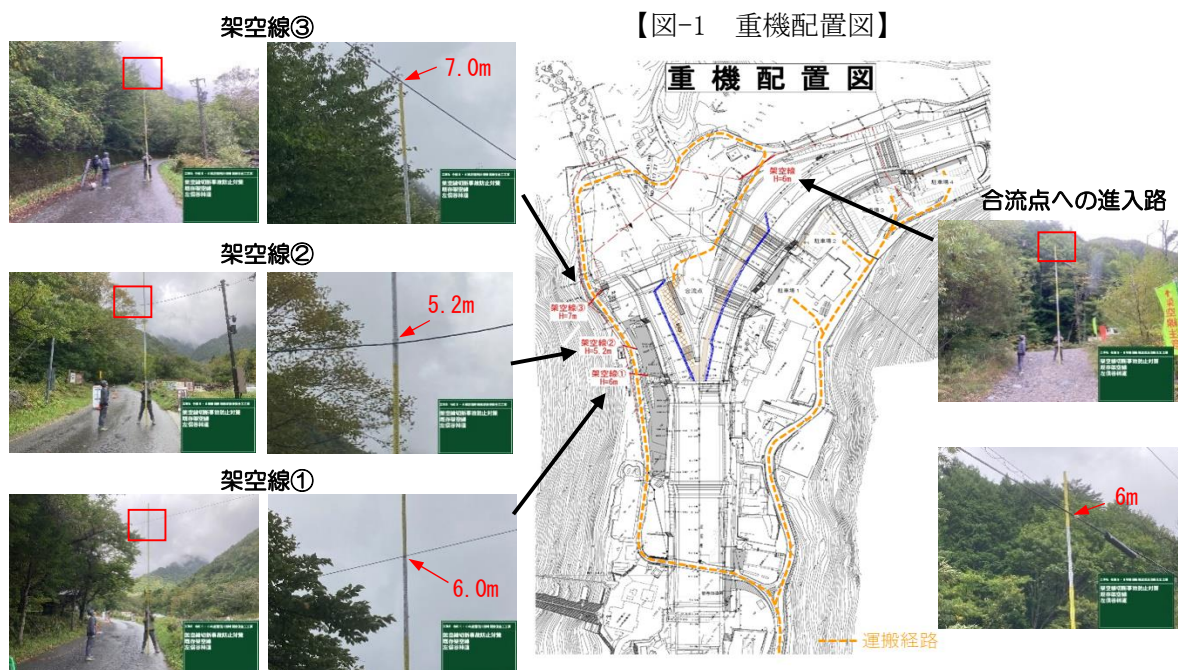
2. 工事概要

砂防土工	1式	道路附属施設工	1式
流路護岸工	1式	構造物撤去工	1式
人工地山工	1式	仮設工	1式
付帯道路工	1式		

3. 架空線切断等事故防止

3-1. 既存架空線の確認

工事場所周辺には近隣施設へ供給されている電力線などの架空線が道路を横断している場所があり、工事用車両が通行する際に接触して損傷すると周辺施設へ影響を及ぼすことが考えられたので、工事着手後、直ちに架空線の位置や地上からの高さを確認し、『重機配置図』に記載したもの【図-1】を室内に掲示して、作業員の新規入場者教育や朝礼時の打合せ等で周知した。



3-2. 高さ制限の設置

流路護岸工、仮設工は右俣・左俣谷合流点付近での施工となる。また、付帯道路工の掘削で発生する土砂の大半は右俣・左俣谷合流点へ運搬・仮置きし、盛土及び埋戻しに用いる土砂は仮置きした土砂の中から適したものを使用する。

右俣・左俣谷合流点に出入りするダンプトラックの荷台やクレーンのブームが完全に格納されていない状態で走行して架空線を損傷することを防止するため、出入口部に高さ制限（高さ3.8m）を設置した。【写真-1】



3-3. のぼり旗の設置

右俣・左俣谷合流点への進入路を横断している架空線はバックの樹木の色と

似ており、運転席からはわかりづらいので『架空線注意』と記したのぼり旗を設置して、上空に架空線があることをわかるようにした。【写真-2】

【写真-2 のぼり旗設置】

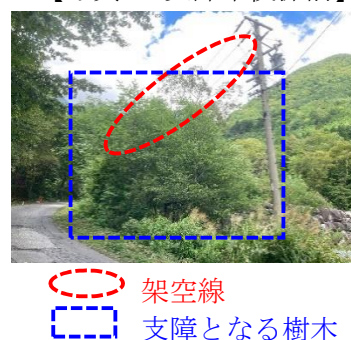


3－4．支障木伐採に伴う架空線の損傷防止

左俣谷下流砂防堰堤右岸側の袖部対策工施工場所には支障となる樹木があり、掘削前に伐採する必要があった。一般的には根元で切断して伐倒するが、上空には架空線があり、一部は架空線の間を抜けて伸びていたので伐倒時に架空線を損傷する恐れがあった。【写真-3】

支障木の伐倒に先立ち、高所作業車を使用して架空線に影響すると思われる範囲の枝を剪定【写真-4】することで架空線を損傷防止を図った。【写真5,6】

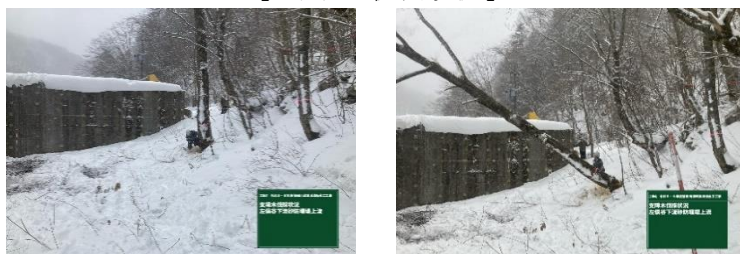
【写真-3 支障木伐採前】



【写真-4 剪定状況】



【写真-5 伐倒状況】



【写真-6 支障木伐採完了】



4．幸橋橋詰での登山者との事故防止

新穂高ロープウェイの新穂高温泉駅と笠ヶ岳や双六岳など左俣谷方面の登山者は右俣谷に架かる幸橋（人道橋）を渡って不特定多数の方が通行されるが、周囲の景色や同行者との会話、ラジオに夢中となり、車両が接近していることに気づかない場合がある。

[illegible]

工事期間が約1年と四季を通じた施工であったが、無事故・無災害で工事を完成することができました。地域の方々をはじめ、工事に携わっていただいた関係者の皆様方に感謝申し上げます。

